島根県教育委員会指定　　令和２年度～３年度　　幼小連携・接続研究事業

～つながることの先に見えてきたもの～
ごか保育園と五箇小学校の保小連携活動
研究のまとめ

令和４年３月

隠岐の島町立ごか保育園・隠岐の島町立五箇小学校

１　研究の目的

（１）小学校、幼児教育施設の実態、課題

隠岐の島町五箇地区は、伝統的な行事が大切にされ、歴史と自然、人の調和があり、地域の人みんなで子供たちを見守り、育もうとする土壌がある地域である。

隠岐の島町立五箇小学校とごか保育園は、約３００ｍの位置に隣接している。ごか保育園は、園児数４５名で、「一人ひとりをのばす保育」を目指し、心もたくましく、温かい関わりの中で、思いやりの心を育み、自分を表現し、元気に遊べる子供を目標に保育を行っている。一方、五箇小学校は、全校児童８３名で、「豊かな心を持ち、自ら学び考え、たくましく生きる五箇の子供を育てる」を教育理念として掲げ、やさしく、かしこく、たくましくをキーワードとして日々教育活動を行っている。

今まで、五箇小学校とごか保育園は、保小連絡会（１年授業参観、情報交換）、地域参観日の授業参観、行事での交流（小学校マラソン大会、ふれあい運動会）等を通して、お互いに交流を図ってきた。

しかし、何のために交流活動を行っているのか不明確になってきたこと、また、保育園、小学校共に、お互いの教育、保育についての認識不足等が課題として挙げられた。

（２）研究の目的

・保小連携、接続の取り組みを通して、五箇地区の豊かな地域素材・行事・人材を活かして、人とかかわる中で園児・児童のコミュニケーション能力を伸ばしていくこと
・アプローチプログラム、接続カリキュラムの整備
・交流活動の充実
・職員、教員のお互いの教育、保育についての理解の推進・共有
・職員、教員同士の交流の推進

２　重点的な取り組み計画

（１）アプローチプログラム、接続カリキュラムの整備

・接続カリキュラム、アプローチプログラムの見直しを行う。

（２）交流活動の充実

・保育園から小学校へ昼休みに校庭へ行き、一緒に遊ぶ

・小学校総合的な学習、生活科の中での、園児との交流の単元を扱う。

（３）職員、教員の互いの教育、保育についての理解の推進

・保小合同研修会

・授業研究会（保育園職員参加）

・研究保育（小学校教員２名参加）

・学校教員による保育体験

・参観日における保育士の授業参観

（４）職員、教員同士の交流の推進

・園だより、校報を互いに配付しあい、掲示する。

・毎月の担当者会の実施

・交流活動に関わる綿密な打ち合わせ

３　主な取組の実際

（１）子供の交流

〈令和３年度〉　【ゆめのいかだをつくろう】　年長児と３年生の交流活動

〇交流計画

・交流活動１　水遊びで仲良くなろう

・交流活動２　ゆめのいかだのこうそうをねろう

・交流活動３　ゆめのいかだをつくろう（本時）

・交流活動４　ゆめのいかだにのろう

〇本時のねらい

〈全体〉　異年齢間の交流を通し、相手の気持ちを考えながら（相手意識をもつ）主体的に異年齢の友達と関わろうとする力を培う。

〈小学生〉年長児が安全に楽しく活動できるように、相手の思いを積極的に聞き出しながら、サポートすることができる。

〈保育園〉３年生の姿や話しをしっかり見たり聞いたりしながら、思い描いていたいかだを完成させよう

〇展開

・はじめの会

・ふれあい遊び

・ゆめのいかだ作り

・終わりの会

〇子供の様子

３年生と年長児との３回目の交流活動で、互いに顔や名前を覚えており、少し緊張は見られるものの、和やかな雰囲気で活動がスタートした。時間内にいかだの完成はできなかったが、年長児達は自分が思い描いていた夢のいかだに近づき、嬉しそうだった。

以前は、自分のしたいことを優先的にしていた３年生児童が、年長児に声をかけたり、ほめたりする場面があった。また、「はじめはぼくがやってあげる」「〇〇さん、お手本見せてあげて」などの発言も見られ、どの児童も、お互いに協力し合いながら、積極的に活動に参加していた。

〇成果

打ち合わせを何度も行い、交流活動のねらいや互いのねらいを共有した結果、児童がいきいきと活動に取り組むようになっていった。その過程で、保育園職員と小学校教員との信頼関係も構築されてきた。また、短期間で、複数回の交流学習を行ったことで、交流の度に児童同士の自然な関わり合いがだんだんと増えていった。

（２）教職員の研修

①第１回　保小研修会

実施日　令和２年６月２９日

内　容　講義・演習　　「幼小連携・接続」が必要なわけ

講　師　島根県幼児教育センター　　川上　洋子　指導主事

〇ねらい

保育園と小学校の教職員が一緒に学び、幼児教育の仕組みや指導をつなぐ方法を知る事を通し、自校の保小連携の在り方を見直すきっかけとする。

〇成果

スタートカリキュラムを「幼小接続期カリキュラム」と捉え直し、幼児教育と小学校をつなぐものという意識を持つことができた。子供の育ちの連続性や一貫性を保つことの必要性を知り、入学当初の１年生に対しての認識を共有することができた。

②第２回　保小研修会

実施日　令和２年７月３０日

内　容　講義・演習　　幼児期の教育・子供の見取り

講　師　島根県幼児教育センター　　川上　洋子　指導主事

〇ねらい

幼児教育の仕組みを知り、今後の保小交流の在り方や教職員の視点を広げる。

〇成果

講義・演習を通して、夏休み中の保育参観での視点を持つことができた。演習では動画を視聴し保育園、小学校の教職員と一緒に「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を「資質・能力の３本の柱」に当てはめ、考えることができた。

③小学校教員による保育体験

実施日　令和３年８月　４日，５日，６日　９：００～１１：３０

内　容　・園の概要説明

・各クラスに分かれて、保育体験を行う。

（プールの見守り、食事介助、製作補助等）

〇ねらい

保育体験を通して、就学前の幼児の理解を図り、保育園と小学校の滑らかな接続に活かす。

（３）接続期の教育・保育活動

①小学校の実践

〇ねらい

保小連携や接続期の教育活動を充実させることを通し、学校生活を安心して送ることができるようにする。

〇実践

・保小接続カリキュラムの作成

新入生が安心して過ごせるようスムーズな接続を目指し、保育園・小学校で協議し作成した。五箇の子につけたい力として、共通してコミュニケーションの力を掲げ、「聞く・話す・動く」を中心に手立てや活動を資料に整理した。

・保小情報連絡会の開催

保小情報連絡会を入学前・入学後、複数回に渡って行った。入学前には、保育園での生活の積み重ねや児童の情報交換などを行った。入学後は、学校生活の様子や子供の情報共有など、子供の様子を中心に語り合った。入学した週に昨年度年長児担任・園長による学校生活参観・情報交換会を行った。

・校内での見取り

スタート数週間の１年生の様子をしっかりとみとり、安心した学校生活につなげるために、小学校の教職員全員で１年生の様子を記録・共有した。

〇成果

・保小接続カリキュラムをもとに、これまでの育ちをつないでいくことに取り組んだ。「聞く・話す・動く」の力を中心に０からではなく、つけてきた力をのばしてくことを意識することができた。

・入学前の保小情報連絡会で共有した朝の活動などを小学校でも継続した。「保育園でもしてたよ」という言葉もあり、新しい環境の中、これまでしていたことが安心感や自信につながると感じた。保小情報交換会で子供の様子を中心に語り合うことや保育者参観を行うことで、継続して子供たちを見ることができ保小両方の安心感にもつながった。

・校内の教職員全体で入学後の１年生の様子を見取ったことで、学校全体で１年生と関わるという意識を持って過ごすことができた。１年生の姿を付箋に書き留めていくことで、そうじや休憩など担任が見切ることのできないところもあとから様子を知ることができた。

・入学したての子供たちは、新しい生活に楽しみな気持ちも不安な気持

ちも持っている。保育園での経験をつなぐことや視覚的な支援、担任を中心とした教職員の関わりなど安心してスタートできる環境が大切である。保小の教職員が意識を共有し、語り合いながら進めて行くことの重要性を感じた。

②保育園の実践

〇ねらい

小学校生活を見通した活動を行うことで、年長児が安心して、小学校生活になじむことができるようにする。

〇実践

・「ごかしょうがっこうをつくろう」

小学校を身近に感じるために、五箇小学校内の地図を作り、小学校の教職員の顔写真と名前を貼った。作成した地図を掲示した。

・朝・夕の集まり

保育園では、３～５歳児で朝・夕の集まりをしている。その際、日付や経験したことの発表に取り組んでいる。

〇成果

・年長児とマップを作成し掲示したことで、小学校を身近に感じることができた。教職員の顔と名前がわかり、入学後の安心感につながった。また、マップを作る中で、行ってみたい場所ができ、わくわく感を持つことができた。

・３歳児から朝・夕の集まりをすることで、人前で話すことの経験が積み重なり、話すこと・聞くことへの慣れにつながっている。また、保小の情報交換の場で集まりの流れを共有し、小学校でも流れを継続したことで、新入生は抵抗感なく全体の前で話すことができた

４　接続カリキュラムについて

（１）カリキュラム作成・実践・改善の実際

保小のスムーズな接続を目指し、令和２年度に作成した。五箇の子につけたい力として、コミュニケーションの力を掲げ、「聞く・話す・動く」の３つの柱を設定した。これらを中心に、保育園が５歳児後期からのアプローチカリキュラムの部分を、小学校が入学後の１学期部分を作成した。作成したものを持ち寄り、細かなすり合わせを行った。

令和３年度入学生から実施し、入学に合わせて小学校では、職員会議の中で接続カリキュラム・週案（学習内容）について説明・確認を行った。また、保小担当者によるカリキュラムの確認と共通理解を図った。

５　幼小連携・接続に関する年間計画（実際）

時期	令和２年度 ○…交流活動　◆…職員交流、研修等	令和３年度 ○…交流活動　◆…職員交流、研修等
４月		◆保育園職員による、新１年生の観察
５月		
６月	年間を通した日常の関わり **○保→小　昼休みに校庭へ行き、一緒に遊ぶ。** **○保⇔小　毎月の園だより、校報を互いに配付しあい、掲示する。** ◆保小合同研修会 ○小学校マラソン大会（園児応援）	年間を通した日常の関わり ○保→小　昼休みに校庭へ行き、一緒に遊ぶ。 ○保⇔小　毎月の園だより、校報を互いに配付しあい、掲示する。 ◆毎月の担当者会の実施 ◆交流活動に関わる綿密な打ち合わせ ◆参観日における保育士の授業参観 ◆１年生活科　公開授業、授業研究会 保育園職員参加 ○３年総合　夢のいかだを作ろう ○小学校マラソン大会（園児応援） ○ふれあい運動会
７月	◆保育参観 ◆保小合同研修会	○３年総合　夢のいかだを作ろう ◆研究保育（小学校教員２名参加）
８月		◆保育体験
９月		
10 月	○３年総合「五箇の福祉探検隊」 ○４年総合「芋づるリースを作ろう」	○４年総合「芋づるリースを作ろう」
11 月		○３年総合　チャレンジおまつり
12 月	○「えがおかがやく発表会」	
１月		
２月	◆保小合同研修会 ○「一日入学」１・５年と年長児交流	○一日入学　新１年生と１年生との交流
３月	２年生活「明日へジャンプ」 発表と交流	

６　研究の成果と課題

（１）取り組みの成果

①子供たちの様子

・接続カリキュラム、アプローチプログラムの改善、実践により、新入生が安心して学校生活をスタートし、円滑に学校生活に馴染んでいくことができた。

・綿密な情報交換会の実施により、保育園での実践を無理なく小学校でも取り入れたことで、例年よりもさらに安心して学校生活をスタートできた様子であった。

・園児と小学生の交流活動では、それぞれねらいにせまる交流活動を重ねることができた。その中で、児童、園児がいきいきと活発にコミュニケーションを取り合い、仲良くなっていく様子を見ることができた。

②教員、職員の様子

・新１年生を全教職員でみとる体制作りにより、１年担任だけでなく、小学校全体で新１年生を見守り、支えることができた。また、この取り組みの結果、新１年生の良い姿を沢山見ることができ、保育園へ伝えていくことができた。

・研修会の実施や保育体験により、保小がお互いの教育、保育にについて理解を深めることができた。それにより、子供の育ちについて共に考えようとする風土ができていった。さらに、保小互いに子供の話をする時、だんだんと固有名詞で話をするようになった。常に子供の姿を中心に置き、些細なことでも気軽に相談し合える雰囲気ができていった。保育園と小学校の間にだんだんと構築されてきたものは、信頼関係であった。この信頼関係は、当初お互いに感じていた遠慮や多忙感といった問題を解決し、今では、よりよい接続や連携を図っていく礎となっている。

（２）今後の課題

・現在の接続、交流の体制を、今後も続けていくこと

・交流事業について、各学年の発達段階をもう少し考えた内容としていくこと

令和３年度　五箇小学校スタートカリキュラム

	4月	5月	6月
行事	○入学式 ・交通安全教室 ・授業参観日（国語） ○全隠岐陸上壮行式	○家庭訪問 ○小体連陸上大会壮行式	・授業参観（国語） ・春の遠足 ・ふれあい運動会
児童の姿	学校教育目標「豊かな心を持ち、自ら学び考え、たくましく生きる五箇の子どもを育てる」 ～やさしく、かしこく、たくましく～ 思いやりのある子（心）よく考える子（技）明るく元気な子（体）		
教科としての指導事項	【国語】◎教師の問いかけに対して、絵を見て話す。 ◎相手や場面に応じて、言葉遣いに気を付けて話す。 ◎読み聞かせを楽しく聞くことができる。 ◎正しい姿勢で鉛筆を持つことができる。 ◎友達と自己紹介をし合うことができる。 ◎場面に応じた声の大きさで話すことができる。 ◎語のまとまりに気をつけて、音読することができる。 ◎音節と文字の関係に気づくことができる。 【算数】◎ものの集まりに着目して個数を比べる。 ◎１０までの数の読み、書き、系列を理解できる。 【生活】◎学校の施設、職員がわかり、楽しく安心して生活ができるようにする。	【国語】◎絵を見ながら、尋ねたり質問に答えたりできる。 ◎平仮名で濁音を含む単語を書くことができる。 ◎リズムや繰り返しを意識して音読できる。 ◎語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読できる。 ◎主語と述語の関係に注意して文を書ける。 ◎促音や半濁音のある言葉に気を付けて正しく書ける。 ◎気持ちを話したあとに、そのわけを話すことができる。 【算数】◎５までの数の合成・分解を理解できる。 ◎順序数の意味を知り、ものの位置を表すことができる。 ◎６～10の合成・分解と 10の補数関係が理解できる。 【生活】◎植物を継続的に栽培して、その変化や成長に気付き、植物に親しみをもって大切にできるようにする。	【国語】◎長音・拗音のある言葉を読み書きでき、助詞の「を」「へ」を文の中で使える。語と語をつなぐ助詞「は・を・へ」を文の中で使える ◎説明の順序や内容を考えながら読むことができる。 ◎自分の体験を姿勢や話し方に気を付けて順序よく話すことができる。 ◎はっきりした発音や口形に気を付けて声をだす。 ◎書こうとする題材を観察して必要な事柄を集めて書くことができる。 ◎詩や文としてのまとまりに気を付けてリズムよく読むことができる。 【算数】◎ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすることができる。 ◎たし算の記号や式のよみ方かき方を理解して 10以下のたし算ができる。 【生活】◎自然と関わり、自然の不思議さやみんなで遊ぶ楽しさを感じ、安全に気を付けながら、夏の遊びをすることができる。
活動のねらいと内容	◆主体性を持って行動し、見通しを持って生活する。（生活習慣の自立） ・学校生活のリズムに慣れ、時間ごとに活動をしたり、場所を変えたりできるようにする。 ・自分の持ち物を確認して、準備や片付けをできるようにする。 ・校内・登下校の安全指導をとおして、安心して学校生活を送れるようにする。 ◆友達や先生との人間関係を築き、一緒に生活したり学習したりすることを楽しむ。（共同性の育ち） ・休み時間を友達や先生と遊び、良好な人間関係を築けるようする。 ・集団行動するときの約束を確認して、お互いに気持ちよく生活・学習ができるようにする。 ◆身近な人、もの、ことに興味や関心を持って関わり、友達と学び合おうとする。（学びの芽生え） ・学校生活・行事等を通して、興味や関心を広げて、今後の生活をより良くしていけるようにする。 ・教科の特徴を知り、友達と一緒に学ぶ楽しさを感じて、学習への意欲を高める。 【特別活動】 ※朝読書：豊かな感性を育てる。 ※朝マラソン：体力向上をはかる。 ※給食：基本的な生活習慣を身に付ける ※掃除：勤労意識を育てる		
挨拶	□自分の名前を呼ばれたら大きな声で返事ができる。 □先生や友達に挨拶をすることができる。	□先生や友達に元気よく挨拶することができる。	□先生や友達に元気よく挨拶することができる。 □来客や地域の方に自分から挨拶をすることができる。
体力	□自分の荷物をもって、自宅から学校まで歩いて登下校することができる。 □休み時間、友達と外で元気よく遊ぶことができる。	□朝マラソンに参加して、走ることができる。 □体育館や校庭でも友達と元気よく遊ぶことができる。	□朝マラソンに参加して、最後まで走ることができる。 □色々な場所で友達と元気よく遊ぶことができる。
給食	□手洗い・うがいをしっかり行い、自分の当番をすることができる。 □食事のマナーに気を付けてたべることができる。	□手洗い・うがいをしっかりと行い、自分の当番に責任を持って、取り組むことができる。 □食事のマナーに気を付けて、残さず食べることができる。	□手洗い・うがいをしっかりと行い、自分の当番に責任を持って、取り組むことができる。 □食事のマナーに気を付けて、残さず食べることができる。
話聞	□話をしている人を見て、最後までしっかりと聞くことができる。 □相手や場面に応じた言葉遣いを知る。	□姿勢を正して、話をしている人を見て、最後までしっかりと聞くことができる。 □相手や場面に応じた言葉遣いを知り、話すことができる。	□姿勢を正して、話をしている人を見て、最後までしっかりと聞くことができる。 □相手や場面に応じた言葉遣いを知り、話すことができる。
読書	□読み聞かせを静かに聞いて、想像を膨らませることができる。 □本に興味を持ち、自分で本の管理をすることができる。	□絵本を聞いて、静かに１０分間読書をすることができる。 □よく読む本の位置がわかり、図書室のマナーを守ることができる。	□絵本を聞いて、静かに１０分間読書をすることができる。 □学習で使う本のおおよその位置がわかり、図書室のマナーを守ることができる。

保幼小連携・接続　交流活動案

実　施　月　日	令和３年　７月１２日（月）
校園名・学年・人数	ごか保育園年長児９名 / 五箇小学校３年生１３名
活　動　名	夢のいかだを作ろう
実　施　場　所	ごか保育園
交流活動全体のねらい	異年齢間の交流を通し、相手の気持ちを考えながら（相手意識をもつ）主体的に異年齢の友達と関わろうとする力を培う。
	年長児・３年生の姿や話しをしっかり見たり聞いたりしながら、思い描いていたいかだを完成させよう
	児　童・年長児が安全に楽しく活動できるように、相手の思いを積極的に聞き出しながら、サポートすることができる。
総合的な学習の時間のねらい（小）	年長児の考えや思いを積極的に引き出しながら、年長児をサポートすることができる。
準　備　物	・名札（色ガムテ）・〇〇時計・隠岐の風 CD ・材料となる物（ペットボトル／牛乳パック／発砲スチロール／浮き／ポリ袋／流木／布／不織布／段ボール／新聞紙／ひも／ストッキング等） ・道具（布ガムテープ／セロハンテープ／ビニールテープ／ハサミ／カッター／目打ち／接着剤／ボンド／糊／グルーガン／マジックペン／クレヨン／ペンキ等）

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園 ●幼児の活動　〇保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●グループごとに並ぶ 〇緊張がほぐれるよう、簡単なふれあい遊びを行う	10：00	①はじめの会＜遊戯室＞ ・挨拶（３年生） ・ふれあいあそび ・流れの説明（河田） ・約束ごと確認（河田） ・めあて確認（東・河田）	◆グループごとに整列をする ◇緊張がほぐれるよう、簡単なふれあい遊びを行う。
●わからないところ、できないところを、お兄さんお姉さんに聞きながら思い描いていたいかだを完成させる 〇ペアの年長児・３年生が互いに協力できるよう見守り、必要に応じ援助・言葉がけを行う 〇年長児が３年生に思いを伝えられるよう仲立ちをする	10：10	②いかだ作り＜保育室＞ ＊子どもたちの発想や主体性に任せるが、わからないこと・手伝ってほしいことがでてきた場合に備え、“お助けコーナー”（教員・保育士を配置）を設ける	◆年長児の思い描くゆめのいかだを完成させる。（見守ったり、助言を加えたりし、時には手伝ったりしながら年長児のサポートをする） ◇３年生が、年長児の思いを引き出せるよう、必要に応じて仲立ちをする
〇片づけの曲♪隠岐の風♪を流し片づけを促す	10:55	＊時間内の完成を目指し、作業終了までの時間が意識できるよう“〇〇時計”を活用する	◆年長児とともに、片付けを行う。
●がんばったところ・良かったところなどを言う 〇がんばったことを認め満足感がもてるようにし、今後の活動への期待が持てるような言葉がけをする	11:00	③片づけ ④おわりの会（遊戯室） ・グループで振り返り ・班長発表 ・お礼・挨拶（年長児）	◆振り返りの中で、年長児ががんばったところ・良かったところなどを伝えられるよう、質問をしながら振り返る ◆各グループのいかだについて、リーダーが紹介を行う。

＜振り返り＞※ねらいに即して振り返る

	年　長　児	児　童
幼児・児童の様子や感想	【様子】 ・いつもと違う雰囲気に涙が出てしまう子や緊張気味の子が居いた。 ・時間内の完成を目指したが、完成できなかった。 ・完成はできなかったものの、子ども達は自分が思い描いていた夢のいかだに近づき、嬉しそうだった。 ・初めは赤いガムテープで２本のいかだをつないだが、ビニールテープの方が切りやすかったのでビニールテープに変えた。時間はかかったが、満足していた。 【感想】 ・楽しかった ・いかだに乗るのが楽しみ ・	【様子】 ・以前は、自分のしたいことを優先的にしていた児童が、年長児に声をかけたり、ほめたりする場面があった。 ・「はじめはぼくがやってあげる」「〇〇さん、お手本見せてあげて」などの発言が見られた。 ・どうしていいかわからない児童の姿があったが、その場を離れず、見守っていた。 【感想】 ・年長児さんをサポートできた ・今回はうまく話しることができてよかった。 ・夢のいかだを作って楽しかった ・ひもで結ぶのができてよかった ・たくさんの材料があって楽しかった
評　価 （全体を通して）	・沢山の材料があり、環境面でも児童や年長児の活発な活動を助長していた。 ・時間が足りなかった。時間設定に課題が残った。 ・年長児、児童両方、しっかりとめあてを確認し、活動に移ることができた。 ・振り返り活動を充実させたことで、次回の交流につなげることができた。 ・事前の打ち合わせにより、充実した活動となった。 ・児童の年長児への関わり方がとても成長してきている。	交流について ・第４回の交流で、更に活発な交流が生まれることに期待したい。 ・児童の、年長児に対する関わり方に成長を感じる 総合的な学習の時間について ・「年長児をサポートしよう」のねらいのもと、児童はめあてをしっかりと意識しながら活動に臨むことができていた。 ・手を出しすぎず、適切な援助を学ぶ、行う姿が見られるようになってきた。

人とかかわる中で、コミュニケーションの力（聞く・話す・動く）を育成する保小接続カリキュラム

ごか保育園・五箇小学校

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
この時期の幼児・児童の姿	・運動会後も友だちと誘い合って、集団あそびを楽しんでいる。 ・秋の自然に触れ、自然物を使って製作を楽しむなど、あそびに生かす姿が増えている。	・発表会に向け友だちと一緒に小道具などを作ったり、役になりきって演じたり、歌や和太鼓などを練習したり教え合ったりしている。 ・クリスマスやお正月など、地域や家庭で行う年末年始の行事や生活を楽しみにしている。		・カレンダーやスケジュールを見て、見通しをもって生活している。 ・冬の自然事象にふれ、あそびに取り入れたり、変化に興味をもったりし調べようとしている。	・当番活動を通して協力する姿が育ってきた。特にリーダーシップを発揮する姿や困っている仲間を助ける姿が増えてきた。 ・一日入学や交流学習・お別れ会を通して、就学への期待をもち、楽しみにしている。		・入学式を終え、新しい生活の説明を丁寧に受けながら、少しずつ慣れてきている。 ・学校探検をする中で、もっと学校や先生、友だちのこと知りたいとわくわくしている。 ・朝の身支度など始業までの準備を自分ですることをがんばっている。	・日直や当番活動が始まり、学級のみんなのために責任感を持って取り組んでいる。	・ふれあい運動会では、縦割り班活動を通して、五箇小学校の一員であることを感じている。 ・保育園との交流競技では、上学年として園児に声をかけながら、競技に参加している。	・夏を感じる事象を学習に取り入れ、季節の変化を感じたり、広いプールで水の感触を感じたりしている。 ・音読発表会を行い、グループ活動を通して音読の工夫について話し合っている。
願う姿	・友だちと考えや思いを出し合い目的に向かってあそびや生活を進める。 ・秋の自然にふれ、季節の移り変わりを感じたり、自然物をあそびに取り入れたりする。	・発表会に向けて、友だちと協力し合いやり遂げる達成感を味わう。 ・季節の行事や習慣に興味や関心を持ち、生活に取り入れて楽しむ。		・お正月あそびを通して、文字や数に興味・関心を深める。 ・あそびや生活の中で、互いの思いや考えを伝え合い、共通の目的を持ちながら友だちと工夫して活動を進めていくことを楽しむ。	・身近な自然に気づき、それにふれることで春の訪れを感じる。 ・就学に期待をもち、意欲的に行動する。		・学校生活に慣れ、わくわくした気持ちで登校する。 ・自分の身の回りのことが自分でできるようになる。 ・交通ルールを守って安全に登下校する。 ・平仮名や数字に興味を持って授業を受ける。 ・学級のみんなのために責任感を持ってはたらく。		・平仮名の学習を終え、自分で連絡帳が書けるようになる。 ・学級の中だけでなく異学年とも交流する。	・話し合い活動の中で、伝えたり聞いたりする。 ・水泳学習では、水の感触を楽しみながら、もぐったり泳いだりする。
活動・学習内容	・運動あそびをする 鉄棒・リレー・築山登りなわとび・相撲ごっこ【健康】【人間関係】 ・帰りの会で話し合いをする【言葉】【表現】	・秋の自然物であそぶ 製作・どんぐりゴマ【表現】【環境】【人間関係】	・表現遊びをする 劇・和太鼓・歌【表現】【言葉】 ・冬の現象に関心をもつ 雪玉・つらら・霜・氷【環境】	・正月あそびをする かるた・トランプすごろく・コマ回し【言葉】【人間関係】	・グループであそぶ お店屋さんごっこ【言葉】さくらっこふれあいデー【人間関係】 ・一日入学に参加する【環境】【人間関係】	・卒園式に参加する【言葉】【人間関係】 ・就学を意識した活動をする 時間を意識して生活する・給食の時間内にマナーを守って食べる【健康】【環境】 ・絵本の読み聞かせを聞く	○一年生を迎える会 ○学校探検 ○交通安全教室 がっこうだいすき（生活科） ひらがなの学習（国語科） 教員や上級生による絵本の読み聞かせを聞く。	○春の遠足（1・2年合同）	○学習公開日 ○ふれあい運動会（縦割り活動、交流競技） なつがやってきた（生活科）	○水泳学習（1・2年合同） 音読発表会（国語科）
コミュニケーションの力 聞く	・あそびのルールについて友だちの意見を聞く。 ・絵本や紙芝居、隠岐の民話などを見たり聞いたりして想像する楽しさを友だちや保育士と共有する。	・不思議に思ったことや分からないことを友だちや保育者に聞く。	・友だちの意見や考えを聞いて自分の考えと比べてみる。	・グループやクラスであそびを進める中で、友だちの意見や考えを集中して聞く。 ・上手な子や得意な子にあそび方やコツを訪ねる。	・話しを集中して聞き卒園・入学への意識を高める。 ・小学生や先生の話しを聞くことで入学に期待をもつ。	話している人を見て、最後まで静かに聞く。	・身支度や教室の使い方について教員の話を聞きながら身に付ける。 ・絵本の読み聞かせを聞いて想像する楽しさを友だちや教員と共有する。		・グループ活動やペア学習で友だちの話を聞き、自分の意見と比べながら話し合う。	
コミュニケーションの力 話す	・あそびのルールや進め方を友だちと相談しようとする。 ・自分の気持ちを言葉で伝える。 ・自分が経験したことや友だちに知らせたいことをみんなの前で話す。		・気付いたことや調べたことを友だちに話す。 ・人前で堂々と発表する。		・人の話しを注意深く聞き、相手に分かるように話す。 ・今までの園生活を思い出しながら、心に残る思い出を話す。	相手に伝わるように話す。	・教員や友達にあいさつする。 ・自分が困ったことやわからないことを先生や友だち、上級生に伝える。	・教員や友達に元気よくあいさつする。 ・日直や当番活動、授業の中で、みんなの前に立って聞こえるように話す。	・来客や地域の方に自分からあいさつする。 ・下学年の園児に伝わるように言葉を考えて話す。	・誰にでも自分からあいさつする。 ・話し合い活動では、友だちの意見を聞いた上で、意見や質問をする。
コミュニケーションの力 動く	・自分たちでルールを考え、よりあそびを楽しむ。 ・出し物について友だちと相談しながら決め準備する。 ・友だち同士で思いや考えを伝え合い、問題を解決しようとする。	・共通の目的をもって話し合い役割を分担する。 ・あそびの中で驚いたり不思議に思ったり発見したりする。		友達との関わりの中で、考えながら楽しく遊ぶ ・文字や数図形に興味をもちあそびの中で使おうとする。 ・ルールを作ったり、あそびを考えたりする。 ・友だちと時計を見ながら、一日の生活について相談し、見通しをもって行動する。	・友だちと共通の目的をもってあそびを進めていこうとする。 ・卒園式でのうたや言葉を相談し、みんなで考える。		学校の施設、職員がわかり、楽しく安心して生活できるようにする。 ・学校時程で生活する。 ・休み時間に自分のしたい遊びをする。	・みんなのために必要な仕事について話し合い、当番活動に取り組む。 ・休み時間に友達や担任と遊ぶ。	・色別集会では、異学年と関わりながら活動する。 ・地域の人と関わり、運動会の種目に取り組む。 ・休み時間に友達や担任と遊ぶ。	・水泳学習で友達と楽しく学習に取り組む。 ・休み時間に友達や異学年児童と遊ぶ。
環境と援助	・ルールを守って集団であそぶ楽しさが味わえるようにする。 ・十分にあそび込みができるような時間や場所を保障する。 ・考えを出し合ったり役割を決めたりして進められるようにする。	・図鑑や絵本などを用意し、いつでも調べられるようにしておく。 ・友だちと共通の目的に向かって話し合ったり考えを出し合ったりしながら遊びを進められるようになる。 ・表現遊びを通して達成感や充実感を味わえるようにする。		・かるたやトランプすごろくあそびを通して文字や数図形等に興味や関心がもてるようにする。	・時間を徐々に固定し、限られた時間の中で、工夫して活動したりあそんだりすることができるようにしていく。 ・一日入学は、園児の気持ちが高まる内容になるよう保小間で話し合い計画する。 ・一人一人の幼児の成長を認め喜び合うことで、自信をもって卒園・入学できるようにする。		朝の会の座り方を保育園と同じ形式にする。（週の始め） 絵や言葉で1日や学習の流れの見通しを持たせる。	活動に見通しが持ち安心して参加できるよう、行事などの事前指導を丁寧に行う。 場所や人など、関わる場所を少しずつ広げていく。 保育園のお当番さんと小学校の日直・当番の違いがわかるように絵や言葉でわかりやすく説明する。 ペアやグループで話し合う活動を取り入れる。		
合同活動	○五箇地区運動会〈中止〉	○就学時健診 ○もち米寄贈（3年生） ○どんどまつり〈中止〉 ○カーテンラッセル寄贈（家庭科クラブ）	○さくらっこ発表会（校長先生）		○一日入学（1,5年生）	○あしたへジャンプ（2年生）	○入学式 ○学習公開日 ○保小連絡会		○学習公開日 ○ふれあい運動会 ○マラソン大会	○五箇ふくし探検隊（3年生） ○水泳学習

追加資料

教育委員会の取り組みから

令和３年度　保小連携・接続研修会（振り返り）

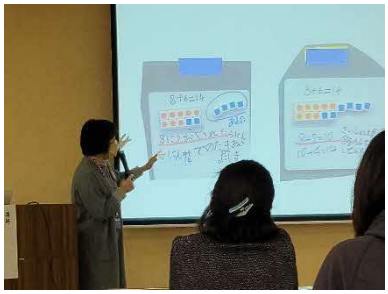
隠岐の島町教育委員会　総務学校教育課
隠 岐 の 島 町 役 場　　保 健 福 祉 課

１．目　的　　ごか保育園と五箇小学校が２年間にわたって取り組んできた連携・接続の成果を鑑み、幼児教育（保育）と学校教育の連携・接続は子供たちの成長にとって、とても重要であると隠岐の島町としても改めて感じているところである。

そこで、町内全域の保育所・園と小学校の合同研修会を通して、保小連携・接続の理解を深めるとともに、実践意欲を高め、今後は隠岐の島町内全域にわたって、それぞれの地域や子どもたちの実態に即した連携・接続が充実していくきっかけとする。

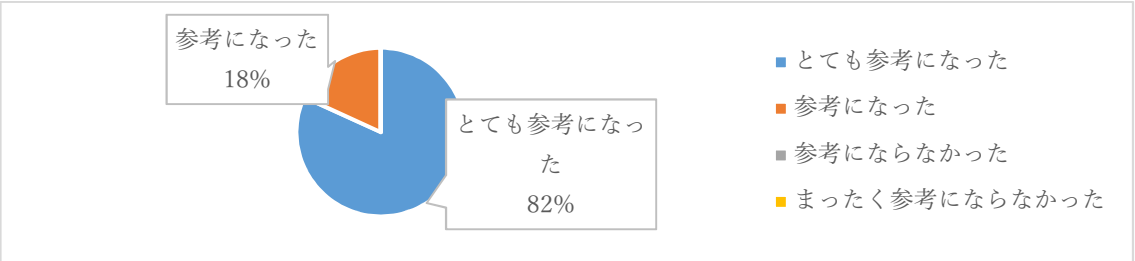
２．期　日　令和４年２月１０日（木）１４：３０－１６：３０
３．講　師　松江教育事務所　川上洋子指導主事
４．参加者

隠岐の島町小学校参加者	１０名
隠岐の島町幼児施設参加者	１４名
隠岐教育事務所	２名
総　数	２６名



５．研修の内容
（１）講義『**保小連携・接続を進めるために**』
（２）グループ協議①　課題や困り感の共有
（３）質疑応答
各班からでた課題や困り感に対して、講師やごか保育園、五箇小学校の職員が、解決策やヒントなどのメッセージを伝える。
（４）グループ協議②　これからやってみたいことを話し合い、発表する。
（５）まとめ

６．参加者のアンケート結果より
（１）研修会について



（２）参加者の感想等（一部抜粋）

・講師の川上先生は、幼児教育と学校教育の違いや共通している部分を現場の写真や図を用いながら、わかりやすく説明してくださり、とても勉強になりました。
・連携、接続の必要性を学校と保育園の職員が同じ場で理解を深めたことはすごく意義があったと思います。グループ討議で、“来年は交流しましょう”と話しが出来て、きっかけ作りをしていただけました。交流を重ねる中で、子どものいい姿を語り合えるようになっていけたらと思います。
・校区内の保・小が同じグループであったため、話もしやすく、これからの取り組みについても話題にしやすかった。
・連携に力を入れてこられた五箇の先生方の話の中で、まずはお互いに気軽に行き来し、職員同士が仲良くなった事で話しやすい雰囲気になったという事でしたので、小さな事から交流を深め、保育園としては伝える努力をしながら、子どもたちのいい姿を語り合える、そんな連携を目指していきたいです。
・現在１年生を担任しているため、子どもの認識（見取り）について大変勉強になりました。

７．研修会の様子等から

講演会では、幼児教育、学校教育の共通点や相違点について考えることを通して、子どもの学びの連続性や、体系的な教育の重要性について理解し、また実現に向けての意欲が高まったと思われる。

その後のグループ活動においても、積極的な発言、また建設的な意見交換がなされ、参加者各自にそれぞれの想いや具体的なアイデアが蓄積されたのではないかと想像できる。

そして、ごか保育園、五箇小学校の先生方には、生の経験を通して感じた難しさや困り惑、そして実際の取組を通して実感した子供や職員の変化について伝えていただけたことが、各地域での連携・接続に向けた具体的な取組みのヒントにつながったとともに、実践意欲につながったように感じた。

本研修をきっかけに、各地域の実態に合わせた具体的な連携・接続が充実していくことを期待したい。隠岐の島町としても、今後も引き続き、より良い連携・接続が実現するよう、各保育所・園や学校のニーズに応えられるような研修会を実施するなど、積極的な取組みを進めていきたい。